

経営概要書

法人名：

株式会社 男鹿水族館

(株 5)

1 法人の概要

代表者職氏名	代表取締役 芝田 昭博	所管部課名	観光文化スポーツ部観光戦略課
所在地	男鹿市戸賀塩浜壺ヶ沢93番地先	設立年月日	平成15年4月16日
電話番号	0185-32-2221	ウェブサイト	http://www.gao-aqua.jp/
主な出資 (出捐)者	出資(出捐)者名	出資(出捐)額(千円)	出資(出捐)比率(%)
	秋田県	51,000	51.0%
	男鹿市	31,000	31.0%
	(株)プリンスホテル	10,000	10.0%
	その他4団体	8,000	8.0%
	合計	100,000	100.0%
設立目的	魚、海獣等との触れ合いを通じた学習の機会を提供し、並びに県民の自然保護及び地球環境保全についての理解を深めるとともに、観光レクリエーション活動のための利便の増進を図る。		
事業概要	水族館の運営		
事業に関連する法令、県計画	なし		

2 平成29年度事業実績

平成29年度は、GW前半が桜の開花と重なった事で約2,700名の減少が見られた。また1年を通して天候に恵まれず、7月の大雨土砂災害、9月の3連休に台風直撃、冬季は例年より降雪が早く寒い日が続いたことなどマイナス要因が重なり、前年に比べ3,000名程の減少が発生した。特別企画展「小笠原展」や、「アザラシの誕生」にともなう広告宣伝活動などで集客する事ができたが、マイナス要因を挽回する事はできなかった。

<事業目標>

項目	区分	平成27年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度
有料入館者数(千人)	目標	235	220	200	175
	実績	190	163	156	-
売上高(千円) ※業務受託収入除く。	目標	368,965	339,645	320,100	301,842
	実績	314,213	270,053	259,832	-
顧客満足度指数	目標	98	98	98	98
	実績	99	98	98	-

3 組織

① 役員数(H30.7.1現在) (単位:人)

区分	取締役		監査役		役員報酬
	H29	H30	H29	H30	
常勤	1	1			支給対象者 (H29年度) 2人
内、県退職者					
内、県職員					
非常勤	4	4	1	1	平均年齢 67歳
内、県退職者					平均報酬年額 (H29年度) 4,230千円
内、県職員	1	1			
計	5	5	1	1	
内、県関係者	1	1			

② 職員数(H30.4.1現在) (単位:人)

区分	H29	H30	正職員
	正職員	16	
内、県退職者			平均勤続年数 6.1年
内、県職員			
出向職員			平均年収 (H29年度) 3,417千円
臨時・嘱託	7	7	
内、県退職者			
計	23	23	
内、県関係者			

③ 取締役会回数

平成28年度	5	平成29年度	5
--------	---	--------	---

4 財務

① 損益計算書 (単位:千円)

区分	平成28年度	平成29年度
売上高	346,762	340,291
売上原価	72,495	68,370
売上総利益	274,267	271,921
販売費及び一般管理費	274,988	273,716
人件費	102,923	104,202
営業利益(損失)	△ 721	△ 1,795
営業外収益	3,870	3,791
営業外費用		37
経常利益(損失)	3,149	1,959
特別利益		
特別損失		
法人税、住民税・事業税	808	665
当期純利益(損失)	2,341	1,294

② 貸借対照表 (単位:千円)

区分	平成28年度	平成29年度
流動資産	250,099	242,762
固定資産	6,179	8,835
資産計	256,278	251,597
流動負債	40,488	34,513
短期借入金		
固定負債		
長期借入金		
負債計	40,488	34,513
資本金	100,000	100,000
利益剰余金等	115,790	117,084
純資産計	215,790	217,084
負債・純資産計	256,278	251,597

退職給与引当状況	(単位:千円)		
	要支給額	引当額	引当率(%)

※中小企業退職共済制度へ加入している。

<主な経営指標>

項目	算式	平成28年度	平成29年度	H28-29増減※
経常収支比率	経常収益÷経常費用×100	100.9%	100.6%	△ 0.3
流動比率	流動資産÷流動負債×100	617.7%	703.4%	85.7
自己資本比率	純資産計÷負債・純資産計×100	84.2%	86.3%	2.1
有利子負債比率	有利子負債÷純資産計×100			

※端数処理の関係で増減が一致しないことがある。
(単位:千円)

5 県の財政的関与の状況

区分	平成28年度	平成29年度	支出目的・対象事業概要等
年間支出			
補助金			
委託費	185		レンタカー利用者向けスタンプラリー事業
指定管理料	76,524	80,459	男鹿水族館指定管理料
年度末残高			
貸付金			
損失補償			
その他の財政支出(基金等)			

I 自己評価

1 公共的役割	2 組織体制	3 事業実施	4 財務状況
B 水族館経営に付随する課題に付いて地域と連携しながら取り組んでいる。また男鹿全体に関するアンケートや、無料送迎バスの運行など施設、地域の利便性向上に努めている。	A 会社法を遵守した運営を行っている。社員の定着、育成に付いては課題があるので、教育プログラムの作成や、即戦力の採用も検討しながら改善を図る。	C 計画未達となっているが、顧客満足度は高い水準を維持している。今後は、新規市場（利用が少ない地区、年齢層など）の開拓、無料送迎バスを活用した商品造成などで計画達成を図る。	A 経常利益が黒字であり、累積債務もない。利益剰余金に付いても、目的を持った積立金とする事で計画的な運営を図っている。

II 所管課評価

1 公共的役割	2 組織体制	3 事業実施	4 財務状況
B 県関与の縮小に位置付けられている法人であるが、地元自治体や企業と連携を図り、男鹿地域の観光振興に寄与するなど一定の公共的役割を担っている。	A 取締役会は5回開催されており法定回数を満たしている。常勤の役員及び職員がおり体制は整っている。充て職の役員は毎回取締役会に出席している。	C 有料入館者数及び売上高は、前年度実績を下回り目標値をクリアできなかったが、顧客満足度は維持しており今後も継続してもらいたい。	A 単年度損益が黒字であり、累積債務もないことからA評価とする。

III 外部専門家のコメント

有料入館者数及び売上高が、目標値・実績値ともに継続的に（翌期の目標値も含め）減少傾向にあり、今年度は、目標に対して実績が、前者は78%、後者は81%となっている。ただ、コスト管理はしっかりなされており、収支状況を見ながら採用人員を調整して人件費を抑えたり、経費をコントロールしている。それでも営業利益は2期連続の赤字となり、今年度は1,795千円の営業損失を計上したが、営業外収益の計上で、最終的には1,294千円の当期利益を計上できた。過去からの蓄積で利益剰余金は多額にあるため、財務基盤は安定しているが、今後じり貧にならないよう、何らかの施策が必要ではないか。顧客満足度は高いので、営業努力を含め、対策は可能と考える。

IV 委員会評価

1 公共的役割	2 組織体制	3 事業実施	4 財務状況
B 三セクの行動計画は「県が直接民間企業に委託することが可能な事業を主たる事業としている法人」に位置づけられている。しかし、公の施設の管理者として、県事業に一定の役割を持つことから、引き続き、サービスの維持・向上への取組が求められる。	A 常勤の役職員がおり、組織体制は整っている。充て職役員の取締役会への出席状況も良好であった。	C 有料入館者数及び売上高が減少傾向にあり、この減少を食い止めることが課題である。引き続き、魅力ある展示企画や積極的な営業・情報発信など安定した入館者数の確保に向けた取組が求められる。	A 単年度経常黒字を維持し、累積債務もなく、財務基盤は安定している。引き続き、コスト管理による経営の安定化が望まれる。

V 前年度委員会評価

1 公共的役割	B	2 組織体制	A	3 事業実施	C	4 財務状況	A
---------	---	--------	---	--------	---	--------	---

評価結果を受けて実施した経営健全化に向けた取組（概要）

- ・アザラシ誕生に関する話題発信や、「小笠原展」を企画して広告宣伝活動を行う事で一定の成果を上げる事ができた。しかし繁忙期に大雨被害の発生や、台風直撃、冬季間に寒い日が続くなどの天候要因を挽回する事はできなかった。
- ・対策として、新たな市場を開拓するために社会福祉協議会と連携した企画や、無料送迎バスの運行などの新規事業も行った。また、「なまはげシャトル(相乗りタクシー)」や、教育旅行誘致、男鹿版DMOなどの各種事業に地域と連携を図りながら集客に努めている。
- ・動力費などに付いても継続して使用量削減を行っているが、原油価格の値上げ分を吸収するにはより一層の工夫が必要な状況になっている。